

# 58期リレーエッセイ

初めてづくしの国選事件は気合いが空回り。  
被告人から不意に出た感謝の言葉、少し嬉しく。

会員

上田 瑞尊



## ■ ■ ■ ■ ■ 弁護士登録後の1か月間

昨年10月に弁護士登録をしてからの1か月間は、それまでの司法修習生活とのギャップに少々苦しんだ。責任のない気楽な修習生の立場と、職務上の言動に常に重い責任がつきまとう弁護士の立場との違いは、想像以上に大きかった。

また、若手の先輩弁護士が手際よく的確に仕事をこなしていく姿を見て、果たして自分は数年後にこのようなレベルに達することができるのかと不安になることもあった。

## ■ ■ ■ ■ ■ 初めての国選弁護

弁護士登録後、1か月半が過ぎたころ、国選弁護で刑事事件を受任した。これが、私にとって、初めての接見や示談交渉を経験し、初めて法廷に立ち、さらに初めての個人事件という、初めてづくしの事件となった。

本件は、被告人が全面的に自白している事件であり、前刑の執行猶予期間中の犯行のため、実刑判決となることが濃厚という事案だった。ただ、本件がかなり軽微な事案だったことから、やれるだけやって再度の執行猶予を求めることにした。

被告人の母親に協力を求め、本件で被害に遭った会社と示談交渉するなどした。会社側の事情から、示談成立には至らなかったものの、会社の担当者から、被告人について寛大な判決を求める上申書を書いてもらうことができた。公判では、本件の証拠とするのは不当と思われる検察官提出の情状関係の証拠がいくつかあったため、それらを不同意とした。

しかし、残念ながら、検察官の求刑をかなり下回ったものの、実刑判決が下された。

私は、被告人から、不意に「国選なのに、何度も接見に来て、いろいろやってくれて、本当にありがとうございました」と言われた。これを聞いて、内心、本当は気合いが空回りして、右往左往してただけなのに…と思いながらも、少し嬉しかった。

## ■ ■ ■ ■ ■ 同期の仲間の存在

弁護士になってから、修習同期の仲間たちの存在のありがたみを身に染みて感じている。

弁護士登録後しばらくは、毎日のように、同期の仲間たちと電話やメールで仕事上の些細な問題点・疑問について、互いに意見を交換し、悩みを相談し合うなどしていた。また、同期の仲間同士で集まって酒を飲み、語り合うことも多い。

やはり、1年半にわたって苦楽を共にし、いわば同じ釜の飯を食ってきた仲間たちとの絆は、非常に強いものがある。

## ■ ■ ■ ■ ■ 今後に向けて

弁護士登録後、半年が過ぎようとしており、ようやく弁護士としての立場に慣れつつある。この半年間は、わけもわからないまま夢中でやってきた感がある。

今後も、司法を取り巻く環境が刻々と変化していく時代の荒波の中、淘汰されてしまわぬように、必死に努力を続け、成長していきたい。